

[有明抄] (2018.2.8)

○次の言葉や表現の意味を調べよう。( ) は漢字の読み方

気概( )	
琴線( )に触れる	
忠節( )	
諫言(かんげん )	
名利( )	
血涙( )	
感銘( )を受ける	
魅了( )する	

○「葉隠」や葉隠に関する本を読んで、印象に残る文章・文節を書いてみよう。

35	30	25	20	15	10	5
----	----	----	----	----	----	---



年 組 (氏名)

○今日の有明抄にタイトルをつけてみよう。

有明抄

「葉隠の言葉は未来のヒントだ」。今年、県庁の行事始め式での、山口祥義知事の言葉である。「葉隠みらい館」が自ら見直す、3月17日開幕の「肥前さが幕末維新博覧会」。より葉隠を身近に感じられそうだが◆18年も前になるが、作家の大江健三郎さんが佐賀市で講演し、中学の時に読んだ葉隠の本の話になった。父親が持っていたという。「有効な侍というものは、藩に対して反抗する力、もの申す気概を持たないといけないというあたりがある」◆大江少年の琴線に触れたようだ。とてもいい。そういう人間になりたいと思った」と続けた。大江さんは、仕える身であつても権力に対し、信念に基づき、怯まず鼻を鳴える大事さを思ったのだそう。「奉公の至極の忠節は、主に諫言して国家を治むる事なり」というのが、そのくんだり◆そう語った山本常朝自身、諫言するため家老にならなければと考へ、奉公する。むろん名利や私欲からではない。でも、とうとう家老になることはなかった。血涙は出ななくても、黄色い涙ぐらひは出たという。ぼや頭張ったと言いが…◆大江さんは、葉隠で自分が感銘を受けたところを、思想家家の丸山真男も論文で引用していたとも語っていた。戦後を代表する進歩的な知性の人をも魅了する。さまざまに読まれ方をした葉隠だが、その深さを思う。(章)